

神戸大学MBA体験フォーラム



神戸大学 MBA プログラムの 模擬講義と説明会

■ 日 時 ■ 2026 年 10 月 10 日(土)13:30-15:30

■ 会 場 ■ ハイブリッド開催

※神戸大学経営学研究科本館 306 教室およびオンライン(Zoom)

■ 参加費 ■ 無料 (定員:教室100名・オンライン150名)



神戸大学 MBA プログラムの模擬講義と説明会

開催趣旨

神戸大学では、1989年に、ビジネス・パーソンのための大学院レベルの高度な経営教育を目的として、国立大学として初めて本格的な MBA プログラムを開始しました。そして、徐々に教育内容を拡充しつつ学生数を増やし、現時点で約 1900 人にのぼる MBA(経営学修士: Master of Business Administration)を送り出しています。

神戸大学の MBA プログラムが真摯に取り組んでいることは、日本型の MBA 教育の確立と日本のビジネス社会の中核となる人材の養成です。日本の経営方式やビジネス慣行の合理性と限界について正確な知識をもち、それを土台にして、グローバルに活躍できるビジネス・リーダーを養成することが我々の目標です。そして、それに適合するように授業科目を体系化し、プロジェクト方式と呼ばれる教育手法を確立してきました。一方、日本の企業社会では、勤務を継続しながら現場で直面する問題の解決を志向した MBA 教育こそが重要であると考え、土曜日のみ、しかも 1 年半で修了できる教育体制を整えています。

こうした神戸大学の MBA 教育プログラムは、すでに神戸大学のウェブサイト (<http://mba.kobe-u.ac.jp>) で詳細に紹介しておりますが、MBA 体験フォーラムでは、この MBA プログラムで実際に行われている授業の一部を公開し、紹介させていただきます。また、MBA プログラムの説明と Q & A セッションも併せて実施しますので、この機会にぜひ神戸大学 MBA プログラムを体験し、理解を深めていただければ幸いです。

スケジュール

13:00～ 受付
13:30～13:35 開会挨拶
13:35～14:30 模擬講義「ストレッチゴールの活用法－従業員の企業家精神をいかに引き出すのか？－」
梶原 武久（神戸大学大学院経営学研究科 教授）
14:30～14:40 神戸大学MBAプログラムについての説明
14:40～15:20 MBA修了生の声：
伊藤文さん（2026・9月修了） / 東洋アルミエコープロダクツ株式会社
取締役執行役員 コーポレート統括ユニットリーダー
管田晃輔さん（2026・9月修了） / 大手IT企業 事業企画部門マネージャー
15:20～15:30 質疑応答

司会進行：森 直哉（神戸大学大学院経営学研究科 教授 / 2026年度MBA教務委員）

梶原武久プロフィール

1997年3月、神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期退学、博士（経営学）。小樽商科大学大学院商学研究科准教授を経て、2006年4月より現職。
専門は、管理会計、コストマネジメント、マネジメントコントロール。近年は、組織デザイン、サプライチェーンマネジメント、組織間関係、ファミリービジネスなどについて研究。主書に、『戦略的成本マネジメント』（中央経済社、2022年）、『品質コストの管理会計』（中央経済社、2008）、『管理会計入門』（日経文庫、2017年）。MBAでは、「Controlling & Reporting」、「テーマプロジェクト研究」、「現代経営学演習」、「現代経営学応用研究（ファミリービジネス）」などを担当。

模擬講義の概要について

「ストレッチゴールの活用法－従業員の企業家精神をいかに引き出すのか？－」

梶原 武久（神戸大学大学院経営学研究科 教授）

日本企業の長年の課題として、リスクテイクが行われないことが指摘されています。PBR1倍未満の上場企業が多いこと、米国企業の上場企業1社あたりの時価総額がここ10年で約18倍になったのに対して、日本企業のそれはほぼ変化していないこと、事業ポートフォリオの組み換えが進まないことなど、日本企業のリスクテイク不足を示すエビデンスは枚挙にいとまがありません。その原因として様々な要因が指摘されますが、なかでも経営者や従業員に企業家精神（アントレプレナーシップ）が欠けている点がしばしば指摘されます。

この模擬講義では、どうすれば従業員に企業家精神を発揮させることができるのかという点について、経営者が企業戦略を組織的に実現するために用いる手段であるマネジメントコントロールの観点から検討します。具体的には、著しく難易度の高い目標である「ストレッチゴール」の役割について検討します。欧米のイノベーションを得意とする企業の代表としてしばしば挙げられるGE、3M、ヘンケルなどは、ストレッチゴールをうまく活用していると言われます。一方で、ストレッチゴールには様々な副作用もあります。挑戦的な目標を掲げることで従業員が疲弊したり、あまりにも強い業績プレッシャーが業績操作や品質不正などを誘発したりするおそれがあります。本講義では、ストレッチゴールの功罪を学びながら、その適切な活用法について考えます。

参加申込方法

※**先着順**となり、定員になり次第締切となります。ただし、定員に達さない場合でも 10 月 9 日正午締め切りといたします。

<https://forms.cloud.microsoft/r/KB2SpnaHHL>

上記の仮登録フォームにアクセスし、受信可能なメールアドレスを入力して送信してください。なお、この時点では参加登録は完了していません。

入力されたメールアドレス宛に、本登録フォームの URL と確認コードをお送りいたします。メールに記載された URL から本登録フォームにアクセスし、確認コードと必要事項を入力して送信してください。登録完了メールがお手元に届きましたら、参加登録は完了となります。

メールが届かない場合は、大変お手数ですが、迷惑メールフォルダーをご確認ください。それでも届かない場合は、入力したメールアドレスに誤りがないかをご確認のうえ、再度、参加仮登録フォームからお手続きください。

お申し込みをキャンセルされる場合は、10 月 8 日までに、登録完了メールに記載されたキャンセルコードとキャンセル手続き URL からお手続きください。

※個人情報の取扱いについて・・・個人情報の取扱いにつきましては、個人情報保護法に基づき、厳重に管理・保護いたしております。記載の個人情報は神戸大学 MBA 体験フォーラム（2026 年度開催）のみに利用いたします。

※神戸大学 MBA メールマガジン「eureka」の購読をご希望の方は下記 URL よりお手続きをお願いいたします。

https://mba.kobe-u.ac.jp/about/eureka_info/

■問い合わせ先：

神戸大学経営学研究科教務グループ

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 2-1

Tel: 078-803-7258 E-mail: mbakyomu@b.kobe-u.ac.jp

神戸大学 MBA ホームページ <http://mba.kobe-u.ac.jp>